

完了報告書（平成 22 年度）

提出者 戸江 哲理

提出年月日 2011 年 3 月 31 日

【プロジェクト名】

和文 日本の子育て支援サークルにおけるコミュニケーションとネットワーク

英文 Communication and Network in Japanese Child-Raising Support Groups

【メンバー構成】

研究代表者 戸江哲理

幹事

メンバー 戸江哲理

【ねらいと目的】（600 字程度）

本プロジェクトの目標は、子育て支援サークルにおける母親・子ども（0 歳～3 歳）・スタッフの 3 者のコミュニケーションとネットワークがお互いに規定し合うメカニズムの一端を解明することにあった。

調査対象は、大阪府の子育て支援サークル 2 か所をメインに設定した。調査手法は、ビデオカメラ等の録画機器を用いた撮影、母親・スタッフへのインタビュー、参与観察などを挙げた。なお研究代表者は、申請時点で既に 2 年から 4 年、これらの子育て支援サークルで上記の調査手法による調査を進めていた。

母親たちは子育て支援サークルを利用することで、他の見知らぬ母親たちと知り合うチャンスを得、場合によっては親しい間柄へと進展していく。これらを育児ネットワークと呼ぶなら、それは子育て支援サークルにおける親・子ども・スタッフのコミュニケーションから立ち上がるに違いない。これを踏まえて本プロジェクトでは、上記の研究手法を採用することで、これらのコミュニケーションから育児ネットワークが築かれていくプロセスの解明を見据えていた。

【活動の記録】

研究会・ワークショップの場合は、開催年月日、報告者と報告題等

調査の場合は、調査年月日、調査者、調査地、調査目的等

その他の活動も含めて、研究期間中の活動について簡潔に記してください。

〔研究会・ワークショップ〕

会話分析研究会（2010 年 6 月 19 日）で、データセッションにデータ提供・討議*

育児社会学研究会（2010 年 7 月 19 日）で、木戸功の著書『概念としての家族』について報告・討議*

育児社会学研究会（2011 年 1 月 30 日）で、大豆生田啓友の著書『支え合い、育ち合いの子育て支援』について報告・討議*

グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」成果報告会（2011 年 2 月 22 日）で、「つながりとしがらみ——乳幼児をもつ母親どうしの交友」というタイトルで報告*

*報告者は、戸江哲理

〔その他の活動〕

調査対象の子育て支援サークルを運営し、戸江が理事を務める NPO の理事会（2010 年 11 月 30 日、2011 年 3 月 5 日）に出席・発言

【成果の概要】（800字程度）

調査対象の子育て支援サークルのひとつで、常連利用者の母親9名に対してインタビュー調査を実施した。インタビューの内容は、子育て支援サークルで知り合った母親たちとの関係・子育て支援サークルを利用する意義・利用の様態などであった。

インタビューをした9名の母親たちは、グループ化した5名の母親たちとグループ化していない4名の母親たちに分けられた。現段階までに、これら2つのタイプの母親たちの比較を視野に入れながら、前者のグループ化した母親たちの検討に重点を置いた検討を行い、次のような知見を得た。

(1) グループ化した母親たちにとって、Xを利用することはグループの他のメンバーと会うことと同義である

(2) グループ化していない母親たちにとって、Xを利用することは他の母親たちと話し、話を聞き、他の子どもの成長・発達の様子を知る場である。だが、X以外の場所で他の母親たちとつながりをもつことを望んでいない

(3) グループ化した母親たちが親しくなった理由として、次の5つを挙げることができる。①子どもの月齢の近さ、②子どもの性別が同じ、③社会的なメンバーの存在、④お互いの住まいの適度な距離、⑤親どうしの相性

以上の知見を踏まえて、以下のような若干の考察を行った。

(1) グループ化した母親たちは、必ずしも子ども中心で自分たちの交友を形成していない。むしろ一見、子どもの都合と思えることにも、母親の都合が入り込んでいる。その意味で彼女たちの交友は、母親アイデンティティから一定の距離を置いている

(2) グループ化していない母親たちは、他の母親たちとの深い付き合いを望んでいない。むしろ深い付き合いは負担（しがらみ）と感じられる

(3) 母親たちがどのような付き合いを望むかは、母親という役割・立場や母親の社会的属性（母親の年齢・実家との距離等）と並んで、母親たちの友達付き合いの来歴と関連している可能性がある

(4) 子育て支援サークルは、比較的深い付き合いを望む母親たちが付き合いを構築・維持・発展させる場として役立っている。同時に、深い付き合いを望まない母親が浅い付き合いを繋ぎ止める場としても役立っている。

【通信欄】

(研究代表者記入)

プロジェクト	■次世代 □次世代ユニット □男女共同参画に資する調査研究	
経費	予算額 300(千円)	実績額 300(千円)

写真1 調査対象の子育て支援サークルの一室



写真2 調査対象の子育て支援サークルの一室

